

# えぐね

※えぐねは、日本三大散居村の地、胆沢扇状地の屋敷の北西側に杉・栗・桐などの木を森のように植えて、冬の季節風から屋敷を守る防風林である。杉は建築材に、落葉は燃料や肥料などにも使われた。冬は温かく、夏は涼しく、緑豊かで快適な住環境を形づくるとともに、日本の原風景を代表する豊潤な景観を生み出している。

## 見て驚愕、終わって納得

### 自転車交通安全教室を開催しました

6月6日(木)に行われた自転車交通安全教室は、生徒に交通事故の危険性を疑似体験させるスクアード・ストレートという教育技法を用いて行いました。この教育技法は、scared (怖がる・おびえる)、つまり恐怖を実感することで、それにつながる危険行為を未然に防ぐことを目的とします。事故現場を再現してみせ、交通ルールの大切さを学ばせたり、非行少年に刑務所を見学させて更生をうながしたりするなどの活動があるそうです。確かに交通事故の現場にリアルタイムで遭遇する機会はめったにあるものではなく、やりようによっては高い教育効果が期待できる技法といえそうです。

演技を担当したのは本職のスタントマンの方々でしたが、細心の注意を払って行っているとはいえ、「よくけがをしないものだな」と感心するほど、交通事故の実際の状況を限りなくリアルに再現していました。最初は演技の派手さに目がいていた生徒たちも、徐々に真剣な表情になっていき、交通ルールを守って自転車を運転することの大切さを実感しているようでした。この貴重な企画は、JA様を始め多くの関係機関の方々のご尽力によって実現したものです。この場を借りて、改めて感謝申し上げます。



※スタントマンによる体を張った再現演技が続きました。映画等にも多数出演しているそうです。



## 読み聞かせて気分がほっこりした朝



6月5日～7日の3日間、ボランティアの方々に本の読み聞かせをしていただきました。「さて、中学生は真剣に話を聞いてくれるだろうか。」という一抹の不安は全くの杞憂に終わり、皆読み手の方に注目して、最後まで真剣にお話を聞いていました。

中学生を対象とした読み聞かせは、かれこれ10年来の活動になるとのことですが、当初は全く見向きもしない生徒がたくさんいたそうです。でも、継続こそ力なりで、今では市内どの中学校に行っても、概ね真面目に話を聞いてくれるようになったそうです。

「胆沢中学校の生徒はいかがでしたか。」とお聞きしたところ、「きちんと話を聞いている様子が伝わってくるので、身が引き締まるし、読んでいて楽しいですよ。」と答えてくださった方がいました。

いつしか自分が親になって、我が子に絵本を読んであげる機会が訪れたときに、この経験がきっと大いに役に立つことでしょう。ご家庭におかれましても、改めて読書の推奨にご理解と協力をお願いいたします。



※学校の図書室も、蔵書、ディスプレイ共に大変充実しています。

## 人権の花を植えました



6月6日(木)、3名の人権擁護委員の方が本校を訪れ、生徒と一緒に人権啓発の花植作業を行いました。



日本国憲法において、人権は「侵すことのできない永久の権利として保証されており、権利の濫用(らんよう)や公共の福祉に反しない限り、十分に尊重されなければならない」(11条、12条)とされています。しかしながら侵すことのできないはずの人権が、今多くの危機にさらされています。現代社会に蔓延しているいじめ、虐待、差別、紛争や災害の多発による生命の危機、様々な格差などの問題は、基本的な人権の保障なしには解消出来ない問題です。

人権について考える貴重な機会をいただき、大変ありがとうございました。環境福祉委員会の皆さん、花の手入れもよろしくお願いいたします。

## ☆オーストラリアへの海外派遣に向けての研修が始まりました



今回は、3年B組の千葉瑞希さんとD組の山田侑佳さんが参加します。6月7日(金)には、結団式と第一回目の事前研修会が行われました。その冒頭の決意発表で、瑞希さんは「自ら積極的に行動して、多くのことを学び、内容の濃い研修にしたい。」と力強く決意を語り、侑佳さんは「文化や生活が違う外国での研修を通して、広い視野で物事を見る目を養い、将来の夢である医療機関の仕事に生かしていきたい。」と堂々と夢を発表しました。

受け入れ先は、ビクトリア州のムループナー中学校です。大変なことたくさんあるかと思いますが、是非初志貫徹でやりとげてほしいと思います。

## いよいよ地区中総体です

地区中総体をいよいよ週末に控え、6月13日(木)に壮行式が行われました。そこで、選手たちにこのような話をしました。



### ☆必勝には必笑こそが大切です

あるテレビ番組の企画で、笑顔の時と真剣な顔の時、それぞれ100m走のタイムとピッチングの球速を記録する実験を行いました。すると、100m走では笑顔の時に13人中7人の記録が平均0.18秒縮まり、ピッチングでもやはり笑顔の時に13人中9人が平均12kmも速くなったそうです。選手からも、「笑顔の方が力まず動けるから走りやすい」、「フォームがダイナミックになるのを感じた」などの声が上がりました。プレッシャーを感じる局面ほど意識的に笑顔を作ることで、知らず知らずのうちにパフォーマンスは向上するようです。

試合中、プレッシャーを感じたら、まずは笑顔を意識してみましょう。必勝=必笑です。

もちろん全ての人や全ての局面に当てはまるわけではないと思いますが、心に必笑の二文字を意識して、最後まで元気に笑顔で戦っててください。保護者や地域の皆様、応援よろしくお願ひいたします。

## ◎来週の地区懇談会、よろしくお願いします◎

### ☆再度のご案内となります

- 6月19日(水) 19:00～  
小山地区 南都田地区
- 6月21日(金) 19:00～  
若柳地区 愛宕地区



## 最近うれしかったこと2つ

**その1** 学校にいらっしゃったお客様から、「生徒のあいさつがさわやかで、とても立派ですね。」とほめられる機会が増えました。挨拶運動の成果でしょうか。さらなる深化を期待します。

**その2** 地域の方から、「えぐね、読んでいます。学校の様子がよくわかるので、とても楽しみにしています。」といううれしいお言葉を何度かいただきました。ご期待にお応え出来るよう、これからも頑張っけて発行していきます。